

光反射資材を組み合わせた体系防除によるブドウのクビアカスカシバ被害抑制

冬季の粗皮はぎ、薬剤の樹幹塗布、光反射資材による地表面の被覆を組み合わせた、ブドウ樹のクビアカスカシバ防除対策

研究開発の背景

- ブドウ栽培ではクビアカスカシバが樹を枯死させる等の深刻な被害をもたらしており、対策技術が求められている。特に、幼虫が樹内に寄生すると、薬剤が効きにくいいため、樹内への侵入を防ぐ技術の開発が求められている。

研究成果の内容

光反射資材による地表面の被覆を組み合わせた総合的な防除により被害を抑制

- 冬季に粗皮はぎを行い、薬剤散布する。
- 光反射資材は、成虫の産卵行動を開始する前(山口県では5月下旬)までに設置する。
- 光反射資材をブドウ樹の株元から約3mの幅で被覆する。または、園地周縁部の地表面及びフェンスに設置する。
- ジノテフラン剤を樹幹に塗布する。

光反射資材は、防草による薬剤の付着促進、株元食入痕の早期発見の効果も有する。なお、機械の走行経路を避けて設置する。

資材名	数(本/10a)	単年度の価格(円/10a)
光反射資材	2.7	11,340
マルチ押さえ	219	2,332
合計		13,672

資材の耐用年数3年として換算。設置時間は2人で1日程度。



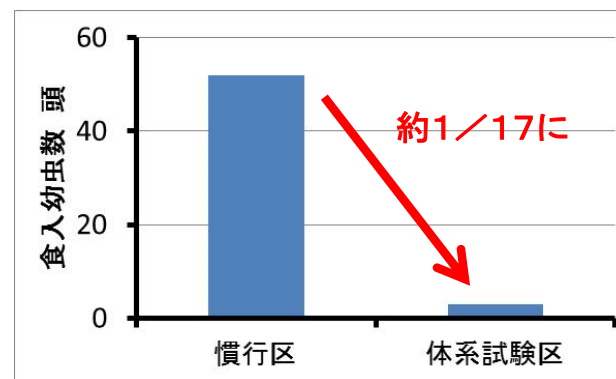
株元から約3m幅



園地周縁部

導入メリット

総合的な防除によりクビアカスカシバの食入幼虫数は大幅に低減



試験区: 光反射資材の設置とジノテフラン剤の樹幹塗布。慣行区: パダンSG水溶性SS散布。
1区15a 8樹、反復なし。
食入幼虫数は7月2日～10月16日の累計数(調査時幼虫除去)

期待される効果

- クビアカスカシバ被害の大幅低減により、ブドウ農家の経営安定化につながる。

導入をオススメする対象
全国のブドウ生産者